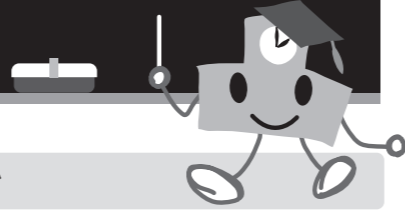


## 小学校の事例 北区 新琴似北小学校

エコをテーマに学校祭を開催。  
エコに関連付けた出店を各学級で工夫。

伝統行事（学校祭）から出る大量のごみに着目し、催しの材料のリサイクルを意識。  
自主的に環境問題に目を向けるきっかけとなり、創造性の成長や継続性が期待できる取組。



## はじまり ごみ削減の視点からエコ祭りを開始

本校では、平成21年度から「エコ」をテーマにした「北小エコ祭り」を行っている。この行事は平成20年度まで、児童が自分たちの意見や発想を生かし計画・運営する「北小祭り」として実施していた。しかし、実施後にダンボールや画用紙などのごみが大量に出してしまうことから見直しを図り、環境の視点を取り入れ、リサイクルに関連付けた取組として行うようになった。



取組をまとめた教室

## 内容 牛乳パックなどリサイクル資源を利用

「北小エコ祭り」は、児童会が中心となって計画・運営している。3～6年生が出店し、そこに低学年が参加する形式である。具体的な催しの内容例としては、ペットボトルキャップをおはじきとして使ったゲーム、牛乳パックを使ったストラックアウトなどの、リサイクルできる材料を活用したものがある。また、途中で環境クイズを出題する迷路など、各学級・学年で環境問題に目を向け、工夫を凝らした内容となっている。

エコをテーマにしたことによって、自主性や責任感の育成、他学年及び仲間との交流といった元来の目的に加え、「環境」について学習したことの発表やまとめの場として活用されるようになってきている。



グリーンコンサートの様子

## 効果 児童が分別を理解 ごみも削減

エコ祭り自体のごみはかなり減量することができ、以前は用務員が行っていた分別作業もほとんど必要なくなった。しかし、子どもの日々の意識が高まるというところにはまだ至っていないのが現状。今後も「北小エコ祭り」を継続して実施していくとともに、総合的な学習の時間での環境への活動を継続すること

で、一時的なもので終わらせず、日々の環境意識を少しずつ高めていくことが必要と考えている。

## 課題 日常的なエコ意識の育成が必要

行っていることは一般的な出店と変わらない中で、エコに関連付けて考えさせるのは簡単ではなく、児童がアイデアを出せるよう支援するのが、指導者としても苦労するところである。好きなことを企画できた一昨年までとは違い、エコとの関連付けが必要なため、企画の工夫が求められる。しかし、その状況の中で、出し物を考えることで、児童の自主性・創造性を育むことにつながると考えている。

今後は環境問題への意識をエコ祭りに限定したもので終わらせず、その後に継続されるようなものを考えていく必要がある。



防風林にかけた木箱

## 関連・発展 防風林を活用して 自然環境を考える

本校では自然を見て、触れて、体験することが重要と考え、地域の身近な自然である防風林から、地球環境について考えていく活動に取り組んでいる。地域の町内会の協力を得て巣箱を防風林にかけたり、環境教育リーダーの引率で防風林を探索するといった活動を実施。また、環境問題について学んでいる教育大学の学生の指導のもと、6年生が学校前と防風林でのpH（ペーハー）の違いを測定し、酸性雪をとおして、地球温暖化について考える学習も行った。自然に直接触れる機会を通して、環境問題に対する子どもの関心が高まってくれば、と考えている。



防風林の部屋

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

実施校から  
メッセージ

この行事は計画段階からごみを減らすということを考え、取り組んでいます。準備の段階から子供たちに呼びかけていくことで、自然と意識し、実行につながっているので、難しく考えずに気軽に取組んでほしいと思います。また、子供たちは実際に体験できることに興味を示すことが多いです。学校環境によって自然を体験することが難しい場合もあると思いますが、出前授業など実体験に近づける工夫をしていくことが望ましいと考えています。